

昭和十七年四月三十日發行

東京 二六二八番

（櫻蔭共濟會）

電話大塚五〇九番

印刷所

電話下谷五五七番

櫻蔭會報

號六十四百二第

女子師範教育

斯波 安

一、師範教育改善促進聯盟にて文部當局の方と三月七日懇談をした。その際來年度より専門學校となる師範學校に於て女子は二年とするといふ聲が聞えた。そのやうに男女の教員に差別をつけるならば一體女教員は何處を受持ち得るかとの間に、女教員には低學年を受持たせるといふ答であつた。

二、私はあきれて物が言へず非常な悔蔑をさへ感じた。母校々長にもこの事を御話し高等教育部委員會をも聞いた結果、本問題は第一に國民學校女教員並に女子師範學校長に降りかゝつてゐる問題なので、全國聯合女教員會の木内キヤウ氏、花木チサ氏、師範教育問題に關心を持たれてゐる馬上孝太郎氏、相澤照氏、佐保會員内山チヨ氏等を招じて相談をした。それで三月四日帝國教育會に於て以上の人たちが及び更に他の國民學校女

教員の方にも集つて貰つてこの問題を大きく取扱ふことにした。

三、以上會合の結果國民學校女教員會では全國に檄を飛ばして奮起することになり、一方決議文を作成して當局に持參陳情することに定まつた。

四、四月七日斯波・竹川（本會員）内山（佐保會員）花木（全國聯合女教員會）の四名は文部省に至り大臣に面會を求めたが來客中なりし故、内山秘書に面會し決議文を示し陳情せし所、秘書は初めより私共の議に賛成にて、修業年限二年などで教員になる教育が出来るものでないと却て當方より言はんとするところを述べられた。次いで橋川大臣にも會見することが出来たので陳情歎願した。猶當局の當局者たる中野普通學務局長に面會し同様に述べたところ左の如く申された。

一、一齊に男女師範を之等

本聯盟ハ昭和十八年度ヨリ専門學校トシテ實施セラル、女子師範學校ノ修業年限ヲ三ケ年トスルコトヲ要望ス

理 由

一、今次ノ大東亞戰爭ニ於テ赫々タル戰果ヲ收メタル原因ハ忠烈千古ニ絶スル軍神ノ方々ノ出デラレタル母ニアリト此ノ頃母ヲ讚フル聲頻リナリ、全ク人間ノ性格ヲ作ルハ母、コノ母タルベキ女子ヲ仕立ツル根本教育ノ重大ナルコトハ言フ俟タズ、コレ日本全國ノ女子國民教育ヲ支配ストモ云フベキ女子師範學校教育ノ輕視スベカラザル所以ナリ

一、國家ノ繁榮、社會ノ福祉ハ男女ノ協力ニヨリテ始メテ期シ得ルモノナリ、然ルヲ男女ノ師範教育ニ甚ダシキ差別ヲ設クルコトアラバ全日本皇國ノ民ヲ如何ニシテ鍊成シ得ベキカ、況ンヤ男教員ノ數益減スル現狀ニ於テ質ニ於テ優良ナル女教員ヲ要スルハ急務中ノ急務ナリ

一、大東亞共榮圈ノ建設ヲナスニハ軍ト相俟テテ大東亞教育體制ノ確立ヲ必要トス、コノ場合前ニ述べタル理由ニ同ジク男女ノ協力ニ待ツベキモノ多々アリ即チ共榮圈指導者タル婦人ノ育成ノ爲メニモ女子師範教育ノ完全ヲ緊要トス

一、尙、日新日進ノ現代ニ於ケル家庭生活並ニ社會生活ノ向上發展ヲ圖ル爲メ女子教育ノ水準線ヲ高ムル必要アリ

依テ女子師範學校ノ修業年限ヲ少クトモ三ケ年トナスヲ要ス

女子師範制度確立期成聯盟

全國聯合女教員會 女子師範同窓會
全國中等學校女教員會 櫻蔭同窓會
佐保會 會

贊助

帝國教育會 帝都教育會
帝國學校校長協會 全國師範學校同窓會聯盟
師範制度速行期成同盟 教育評論家協會
教育振興議員聯盟 全國高等女學校長協會

の専門學校にすると全國に卒業生の一人も出ない年が出るので女子の方を當分二年にする。唯當分では五年か十年かわからぬ故明かにことわりがきを附けると。

五、私共は當分を最も短くすること、女教員は低學年並高學年の女子に最も必要で、低學年は却て學力優秀の教員を適當とする旨を述べて會見を終つた。

役員會記事

○評議員會
三月九日(月) 午後五時半
より七時まで

目次

- 一、女子師範教育：斯波安子……一
- 一、役員會記事……二
- 一、女子技術員養成所報告……三
- 一、東京特設中等教員養成所修了生櫻蔭會入會懇親會記事……四
- 一、客員 會員移動……五
- 一、客員 會員移動……六
- 一、新入會員氏名住所並に勤務先……七
- 一、會員移動……八
- 一、共濟會記事……九
- 一、大塚鋼子氏を偲ぶ……十
- 理事 斯波安子……十一
- 大阪支部 西崎りか……十二
- 奥宮貞子……十三
- 一、寄書……十四
- 長女を櫻蔭技術養成所に入所させて 富岡よし子……十五
- 眞珠灣の九勇士を讀ぶ 角田貞子……十六
- 西崎りか氏の榮轉 山崎ミツ……十七
- 一、新刊紹介……十八
- 有川久恵……十九

一、協議事項

1、工業教育の方で校舎敷地購入のため現金支拂不足分四千圓を會に立替へていただくこと(但し無利子返済)

死亡せられたので本會に參拾圓御寄附あり、之を經常費に入れることにした。

○主事會

昭和十七年三月九日(月) 午後四時半

一、協議

1. 特設中等教員養成所入會 歡迎會の件

2. 女子高等工學校用地買入の不足金は櫻蔭會より一時借入れの件

昭和十七年四月十三日(月) 午後五時

一、協議事項

客員推戴に關する件

母校十三方の先生を客員に推戴することとす。

一、報告

イ、工業教育に關する件

(a) 地所購入の件

(b) 寄附に關する件

(c) 工業學校の認可につき申請の件

(d) 櫻蔭會女子技術員養

成所修了式は三月十七日に舉行す。

本年度の入學生七十六名手續完了。

尚右の爲教室手狭の爲日本間一間を宿泊の爲に残して他の室は流用すること。

ロ、師範教育制度に關し(女子師範は二年との事)男子、女子共三年制度にせられ度との要望を述べ、女子師範制度確立期成聯盟を結成し決議文を得て當局に運動中なり。

櫻蔭女子高等工學校救地購入

工業教育部委員に於て前々より學校救地を物色の結果、遂に武藏野鐵道沿線椎名町驛より二町程の處椎名町三丁目一九八七にて一二九一坪を坪四〇圓此代價五一、六四〇圓にて買ひ取り登記税其他一、五六二圓八〇錢と共に合計五三、二〇二圓八十錢を支拂ひ登記を了した。

賣主升本一家より御寄附

右地所所有者は升本幸喜氏升本喜兵衛氏、升本幸藏氏三名の方であるが尙一族の升本文二氏を加へ以上の四君より金貳千圓を御寄附下さつた。

右は以上四名の方々の御發意であつて、特に工業教育に共鳴されての御寄附で四月十三日代理の方お二人來館あつて斯波安、加藤セチの二人が會見し、御厚志による御寄附を拜受した。(お願ひ)

今後櫻蔭會館に宿泊御希望の方は少くとも一週間前にお問合せ下さいませ、會館へ宿泊出来ない場合には他に御便宜お計ひ致したいと存じますから。

櫻蔭女子工業技術員養成所報告

松村 とみ

一月廿四日

氏御逝去に際し御遺言あり、金壹萬圓寄附せらるる此事に關しては斯波・西脇・越智・松村四會員の盡力一方ならず。二月九日 櫻蔭女子高等工學校救地につき主事會において左の通り決定す。

所在 東京市豊島區椎名町

三丁目 九八五 九八七 番地 九八八

坪數 壹千貳百九拾壹坪

坪價 四〇圓

總額 五萬壹千六百四拾圓

右買入るる事

二月十三日 第三回修了生就職制當左の通りに定む。

三菱重工業 一、氣象臺 一

東京計器 五、中島飛行機 二

石川島 四、櫻陽組合 一

陸軍技術本部 六、當養成所 一

理 研 三、放送局 三

東邦研究所 五、蒙電業 一

横河電機 三、共 他 九

不 就 職 二 計 四十七名

其就職割合一回生八割八分、

又二回生七割七分、三回生九割六分にて時勢に應じ成績大によし(基地とあるは地方より就學せしものにて郷里に歸へり就職する管なり)

三月十七日 午前九時より卒業式を行ふ、本校校長先生、若溪會理事長馬先生、斯波理事の有益なる訓示あり。

四月五日 入學生の考査を行ひ願書提出等百一名の内七十六名入學許可。

四月十日 入學式を行ふ、役員として斯波・山崎・加藤・富田・橋本の諸氏出席せられ斯波理事より有益なる訓示あり

四月十三日 地所購入済の件につき主事會に報告す。

東京特設中學教員養成所修了生櫻蔭會入會懇親會記事

三月十九日午後二時より櫻蔭會館に於て講演

大政翼賛會 中央訓練所長 岩塚源也氏の時局に關する有益なる御講演があつた後、入會懇親會に移り

國民儀禮、國歌齊唱、斯波理事から三十一名の新しい力を我が會のためにかへら

れたる事をよろこびとするといふ祝辭があり、

下村本校々長先生からかうした特殊の卒業生をも櫻蔭會に入會さしていただいた事と御言葉がございました。

客員會員異動

第八項 雜費	600	600	
第一目 贈與費	300	300	吉凶贈與慰勞祭典費等
第二目 諸雜費	300	300	三井信託保護函使用料 一圓
第三目 保管料	0	0	同包裝預料 一圓
第九項 豫備費	200	100	
計	5,000	4,500	500

社團法人 櫻蔭共濟會第十六年度 (自昭和十六年四月一日至同十七年三月卅一日)

事務會計追加豫算

第一項 事業會計ヨリ繰入金	1,000	1,000	
計	1,000	1,000	
第一項 退職手當金	1,000	1,000	
計	1,000	1,000	
差引 殘金ナシ			

○定例役員會

昭和十六年度
第九回 昭和十七年一月十三日 (火)

- 一、十二月分庶務會計報告
- 二、會計監査 十二月分
- 三、協議

一、死亡會員へ弔慰金贈呈の件
○共濟會入會者氏名

川松富久子 (カ)

○定例役員會

昭和十六年度
第十回 昭和十七年二月十日 (火)

- 一、一月分庶務會計報告
- 二、會計監査 一月分
- 三、協議

一、新入會員承認の件
二、死亡會員弔慰金支出の件
三、剩餘金處分案に新に別途積立金を設けること

○書記交代 本會創立以來會務に従事して功勞多かりし林尙氏は今回都合に依り退職に付二月より風當誠二郎氏代りて就任したり

○共濟會入會者氏名

△東京 小林 花き (大九)

○定例役員會

昭和十六年度
第十一回 昭和十七年三月十日 (火)

一、二月分庶務會計報告

一、會計監査 二月分

一、協議

一、來年度事業及事務會計豫算編成

二、林前書記に車馬料手當を贈ること

三、林前書記に退職手當を贈ること

二、報告 三月分の庶務會計に就きて

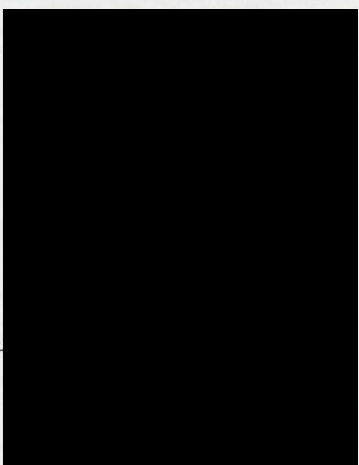
櫻蔭共濟會記事

○定例役員會

昭和十七年度
第一回 昭和十七年四月七日 (火)

- 1. 昭和十六年度決算について
 - 2. 同年度剩餘金の處分について
 - 3. 第一回評議委員會の日時會場附議事項の決定
- 引續き前書記林尙氏に感謝狀を贈呈せり

一、會計監査 三月分



大塚鋼子氏 多徳ぶ

拜承常に敬慕仕居候事に御座候... 此度女工校御創立には一方ならぬ御盡力の儀深く感謝仕居候... 就ては此度山崎先生御下取...

御座候に御座候へ共ほんの心斗り... 誠にく不本意に且御恥かしき次第に御座候へ共ほんの心斗り... 西脇氏へ托し置候處存寄も無...

大塚鋼子氏より斯波安への手紙の全文... 未得拜簡榮候へ共御芳名は夙に拜復

故大塚鋼子様御嗣子淳一君に呈す

斯波 安

大塚鋼子様から昭和十六年の春まだ浅き二月十日以上に掲げましたやうなお手紙を頂きましたのに、その年紅葉の散る十一月十五日遂にこの世を去られましたことは、無常の風も餘りに早かつたことと存じます。このお手紙を頂いた時私も非常な感激を以てこれを讀み鋼子様の會に對しての切實なる御念、會の事業に對しての感情の現はれの深いのに感謝感喜すると共に、一方悲壯な感にうたれつゝも大切に保管して置きました。然る處とうとうこのお手紙が早くも御遺書となつたことを悲しむものであります。

しかし鋼子様の御生前の御遺志を尊重することが亡き友に對する最善の道と考へ、まづ大阪なる西脇リカ姉にこのお手紙を送附し、工業教育委員で現養成所教育に最關係ある松村とみ姉に大阪に行つて頂き兩姉にあなた様との御話會ひを願ふことにしました。御母君を喪はれまして悲しみの涙未だ乾きもせられぬあなた様が、西脇松村兩姉に而會されて御話會ひの末、「母の遺志であるならば實行しなればならぬ」と、仰つて前會報に報じました通り一萬圓、(現金五千圓、公債五千圓)を快く紀元二千六百年記念事

大塚鋼子様について 感じたことども

斯波 安

業たる女子高等工學校建設資金として御寄贈下さいました。何といふ有難いことと御座います。世の常の、百萬長者でも容易になし得るところでは御座いません。たゞひたすらに亡き御母君の御遺志を尊重されての御孝心と且は國策に副ふ女子教育の爲と思召されての御決意によるものと存じまして感謝に堪へません。この上は本會に置きましても亡き母君の御遺志の空しからぬやうに十分の注意を以て、御寄贈の資を使用いたすべく存念で居ります。御地へ参りました節は是非とも御墓にも参拜させて頂きたいと存じます。茲に謹んで以上のことを御母君の靈に御報告申し上げ、あなた様にも改めて満腔の敬意と感謝を捧ぐる次第で御座います。

鋼子さんは明治十九年二月の御卒業で御同級には鈴木しかえさん、吉田かうさんなどがいらつしやいます。私は一度もお目にかゝつたことは御座いませんが久しく大阪に居られ大阪での大先輩であられる、若い會員方の面倒を見られ支部の爲には何くれと種々御盡力頂いてをることをうかがつて居りました。又常に一方ならず猫を可愛がりになりますよしをうかがつて慈愛が動物にまで及んで居らるゝのだと存じて居りました。今回のことによつて平常非常な御質素であられたこと即ち勤儉貯蓄の實踐者でおはしたのと、徹底的に事をなされるお方であるといふこと、わけて敷島の道に御堪能なことを、「うたの友」によつてうかがひ忍耐心のお強い非常な努力家であることなどを知りました。今「うたの友」中野正人氏筆にかゝるものより鋼子様の略を左に抜萃いたします。

本社の顧問として選者として多年盡力に預りし大塚鋼子先生は九月頃より心臓病に冒されて御療養中の處経過良好にて全快の由を傳へられたるも病狀依然悪化し十一月十五日午後十一時十分遂に逝去せらる。先生は廣島藩士高島勝登氏の四女として慶應元年十二月二日に生れ長じて東京女子高等師範學校に入學卒業後數年間育英の業に従事せられしも後職を辭して大塚家に嫁し一子を擧げられたが夭折次いで夫君にも早世せらるゝ重なる不運に遭はれたのである。先生は婦徳の養成を企圖し献身的努力を續けて今日に至る歌道は久保田蓬庵先生に就き其薫陶を受けられ先生歿後須川信行先生に師事して更に研鑽し蘊奥を極められて斯道の大家として名譽噴々たり大日本歌道奨勵會婦人部の勳者本社鹿兒島師繪を始めとし各歌會の師家として本邦歌壇の爲盡瘁せられし功績顯著なり(以下略)

かやうに歌道の大家であられた。そして歌の友社兼題たる「惜秋」の日本全國より集れる千首からの歌を一々目を通されて、みまかられし三日前の十二日に社主中野氏に送られしとのこととであります。「うたの友」にてそれら多くの歌を見て行くに自然と頭が下りては涙が流れるのであります。お好きな道とはいへ御病中かくもおつとめなされし責任感の強さは職務に殉ずるの御精神と貴く覺えました。かういふ御精神でいらしたからこそお手紙にも「老齡の事ゆゑ何のお役にもおたし申さず甚だお耻しき次第と常に存居候へば其節は少々なりとも纏りたる事故度と西脇氏へも申置候ことに御座候」と、その堅き御信念の程をお洩らし下されたことと存じます。これを拜讀して悲壯な御決意に誰か感泣せぬものがありませうか。

かういふ心持の會員の方は絶後とは申し得ませぬが空前だと存じます。櫻蔭會は會員中かういふ方のあつたことを誇と致したいと存じます。意餘つて筆思ふに任せぬのを遺憾に存じます。これで失禮させていただきます。

日の本のこときはめむと

しきしまの

道につくし、偉いなる君

君か名をとほに傳へむ

わか會の

建つる學び舎の

いしすゑとして

大塚 鋼子

○夕鶯——歌の友かへりし窓にをしままでゆふへしはなく鶯のごゑ

○春車——のとかにも花そちりくるをさなこのゆめをのせたる小車の上に

○夏庭——築山をおつる清水もすすしきにほたるとふなりたそかれのには

○閑庭殘菊——人ならば日本ますらをしもかれのにはにほへる白きくのはな

○猫——道のへをかゆきかくゆきなきつゝもさまよふ子猫見すて兼つゝも

○堅——女われますらたけをにゆつらめや國につくさんかたきこゝるば

○川千鳥——濱川のきしの芦原風立ちてさわけはさわくむら

千鳥かな

(うたの友より)

嗚呼大塚鋼子さん

大阪支部 西脇りか

大塚さんは櫻蔭會大阪支部の創開者である。そして亡くなられた昨年まで櫻蔭會大阪支部の爲めには眞に忠實に盡くされた方であつた。否、只々櫻蔭會大阪支部の爲めのみではない。櫻蔭會その爲めに、壹萬金を寄贈せられた特志の會員であつた。嗚呼。

大塚さんのお宅で、かつてはよく會が開かれた。私の大阪赴任の歓迎會も慥か大塚さんのお宅で開いて下さつたと思つてゐる。上本町を電車が通らない以前の大塚邸は、今のお宅よりずつとお廣くて、お二階からの見晴は氣持のよい眺めであつた。始めてお目にかゝつた時、大塚さんは、「私共は日本では女としての最高學府を出たのであるから、何事も一般女性のお手本とならねばなりません。由來大阪の人の會合は時間が正確でない。大阪時間と云つて、きめた通りにゆかないのがほんとうの如くである。九時と云へば十時か十一時か位の會合となるにきまつてゐるのです。ですから私達はこれを改

める爲め、まづ私達の集ひは時間をきつちりと守るやうに致しませうね」と云ひ渡されたものでした。爾來私の知つてゐる限り大塚さんは如何なる會合にも決して遅刻せられた事はなく、時はきつと正確に守られたものでした。此點普通の人は決してまねも出來ない。又會のある時は滅多に缺席なさなかつた。櫻蔭會支部の集りに、大塚さんの缺席せられたのは、御自分のお宅に歌會を開かれる時だとか眞夏のきびしいあつさの時とか、その他は、去年御病臥中の時のみであつた。

一體保守主義の大塚さんは何かを改めやうとか、創めやうとかする時には中々、をいそれと決して賛成なさらなくて、あれこれとよく批判を加へられる。併し一旦きまつた事は絶対に嚴守せられた。若し他の人が規則など守らないとか、少しでも義務を怠るなどの事があると極めて嚴格に非難せられる。手厳し過ぎるなど、思ふやうな事もあるがその代り御自分は嚴守せられるのであるから、非難される方は頭が上がらない。凡べてに義理堅くて、理性的で又一面感情的で而かも極めて禮儀正しい方であつた。今日のやうに、國民禮法のき

まらない數年前、どうも禮法が紊れてゐるのを、櫻蔭會大阪支部で痛感し、作法研究會を開いたが、大塚さんは進んで之れに参加せられ、第一、第三の土曜日、月二回の集りに、滅多に缺席せられなかつた禮法の混亂を正したいとの希望を持つて居られたものであつたであらう。熱心に出席せられて、色々の意見も出され、出來上つたら印刷して世に發表せるとまでの熱意も持つて居られた。

櫻蔭會本部で女子工學校を創設せられるとの報を開かれた時、大塚さんは始めは全然不賛成の意志を表示せられておたが、時局の進展と共に、理性の人で又一面感情の人である大塚さんは國策上大に必要事であると悟られて「西脇さん、この今の五十圓の寄附では少額と云ふ事は能く心得てゐるが持株も下つたし、餘計の財産があるではなし、死んでからいくらかまともまつたものを櫻蔭會に寄附します。西脇さん、ほんとうに私が死んだら遺言状をみて下さい、私の養子淳一は、きつと私の遺言は守つてくれます」此大塚さんのお言葉を聞いてから、私は大塚さんに寄附と云ふ事は云はなかつた。

ふと去年の六月頃から病臥

して居られた大塚さんは十月頃には全快せられて、内祝を贈つて下さつたので御挨拶に行かねばならぬと思つたまゝのび／＼になつてゐた十一月十六日の朝「昨夜他界せられた」とのお電話にびっくりした。遺言状は開かれた。養子淳一氏は遺言状のまゝ、惜しげもなく金一萬圓を櫻蔭會に寄贈せられた。此母あり此養嗣子あり。我櫻蔭會大阪支部は大塚鋼さんを永遠の力と誇とするものであるが、櫻蔭會にとつても大塚さんは、會員全體の力であり誇りであらねばならぬではありませんまいか。(昭和十七年四月)

大塚鋼子師を偲ぶ

明治二五高 奥宮 貞

それは又何と云ふ思ひがけない然かも嚴肅な事實であつたらう。その朝、いやこの瞬間まで、その人の生命がすでに地上のものでないなど、誰が考へたらうか。

十一月十六日、日曜日の早朝、私が急用で南海の住吉驛に出た時、ある知人の口から唐突にその人の死を傳へ聞いたのである。瞬間私は茫然とした。夢と現實が錯綜した様な思ひで、あはたどしくその

様子を開ひ正した。その前の九日の日曜日に私が大塚師をお訪ねした時、今日逢ふ事を約しつゝ朗かに云はれた。

こゝにお米の粉もあるし、とろ／＼芋もあるし、小豆も砂糖もあるよ、これでお饅頭をつくつて頂戴ね、淺田さん(櫻蔭會員で比較的近くに住まはれる)もお呼びして御一緒に頂きなながら話しませうよ。

そうだ、今日は一緒にたのしくお饅頭を食へながら長閑な散談をたのしむ筈であつたその待ちあつた今日この時にその人の訃報を耳にしようとは。

人の生命……それは神秘的なものだらう「神與へ神取り給ふ」生命を司り給ふ嚴かなる御業が正に現實の生々しい事實としてのつゞきなならぬ深い瞑想を私に強ひるのであつた。

大塚師は明治十九年二月の御卒業とか、私をはじめて大阪に赴任した折から先輩として一方ならぬ御指導を受け、又互に夫を失つてからは益々交渉が多くなり、殊に御實子のなき君は年と共に人の訪ふを喜ばれたので私も近年は殆んど毎日曜日に御訪ねするのを例とした。

君は終生、歩み通して倦む事を知らない藝術家であつた。和歌の道に於て。明治時代より毎月一回自宅を會場として同志の婦今を指導せられ關西婦人の歌道奨励に貢献せらるゝところが非常に多大であつた。

又夫君在世中から蓄財の道に長じその老後を平安に過し得る供へをなし、悠々自適その趣味生活の内に大に産を起し人生をたのしまれた。

殊に私の感謝措く能はざることは、その生前に遺言して壹萬圓と云ふ私共には巨額の寄附を櫻蔭會に約束せられ、その永眠後遺族の方がそれを實行された事である。私共は口先では彼是の事を云ひ、又かくなしたいと願ふこともあるが、その實踐の中々に伴はないものであるのに君は黙々として其行爲を敢てせられた然かも何の榮譽をも、自から生前感得することなしに。その死後まで私共の櫻蔭會を愛された。あゝその細やかな行届ける深い愛情を私共はどうした態度で受くべきであらうか。私は君がかうした行爲の奥に深い涙ぐましいものを沁々と感じさせられるのである。

君が病氣は丹毒であつた。僅かな指の傷口が微菌の犯す

ところとなり、終に忽焉として逝かれたのであつた。けれども君が心中には確かに不斷の覺悟があり、其死に供へて悠々たる人生最後の幕を閉じられた偉大な心境に私は強く心を打たれ尊敬の念を深うするのである。

姉が捧げられた寄附金が櫻蔭會のあらゆる事業の中に或は國家文化のために科學界への貢献のために生きて動き用ひらるゝことは云ふまでもないが、同時に姉の精神が前古未曾有の光榮ある國土發展のために粉骨挺身貢献せよと我等櫻蔭會員を激勵して止まざることを痛感するのである。

愛する櫻蔭會諸姉よ大塚姉の御靈の前に更に強く雄々しく立ち上つて君國のため喜んで挺身しやうではありませんか。拙なき一文を草して大塚姉の御逝去をいたみ、併せて櫻蔭會諸姉の決意を固うせん事を願ふものである。

(昭和十七・四・十三)

寄書

長女を櫻蔭技術員養成所に入所させて

大正・四文 富岡美子
會員の皆様——二千六百年

紀念事業として女子の工業に先鞭をおつけ下さいました事を感謝させて戴きます。

畏くも御稔威輝く大東亞戦下に天晴日本民族の本領發揮の今日を築きあげますまでの隠れたる偉力として津々浦々に致々として御盡瘁遊され居る御功績に對して深甚の感謝をお捧げ申上げます。降りて私事會員の席末をけがしなから今日まで何の成す所もなく常々心苦しく存じて居ります折柄、偶々夫の急死に遭ひまして再び東都に居を移し諸姉の御蔭によりまして就職にたづさはらせて戴き感激この事に存じ上げて居ります。就きましては「せめて子供を徹してなりともこの非常時に御報恩のすべもがな」との念願から當養成所に御世話様になりました。「入所以來本校の聖域に出入を許されませぬ一事だけでも光榮で御度いますのに僅か一ヶ年間に高等數學、電氣學、原動學、工學等斯界の權威の先生より親しく御懇切なる御講義を承り、又堅實なる婦徳の涵養に對しては高邁なる御識見による御體験を極めて常識的に縷々御訓戒いたゞき、特に製圖の技術に於ては永年實地經驗深き大家先生より詳細に亘りて御指導下さいまして日に増し上達いたし殊

に多くの實地製圖を扱はせていたゞきです。勉學即御奉公の氣魂で参りました。何も解りませぬ親の眼にも本人の眞剣さがありありと映じまして學而時習之とはかゝる教育をこそと思はれました。斯くして愈々卒業に臨みましても辱も下村校長先生を始め奉り諸先生より身に餘る御詞を賜り定に有難き幸で御度いたしました。「あゝよい所を卒業させて戴きました。お父様も嘸かし満足して下さることです。」と娘に申聞かせた次第で御度います。茲に謹んで地下の靈と共に厚く御禮を申上げます。先生方の御骨折の御蔭で早速人手の少い職場に技能を以て働かせていたゞき國家に奉仕出来ませぬ事は幸福この上ないと感謝してゐます。

微力まことにお恥かしい極みで御座います。何卒將來を呉々も御鞭撻下さいませう御禮と共に御願申上げます。

末筆にて失禮之ら日本の女性としての得難き御一人々々の皆様呉々も御自愛專一に御執筆の程をお祈り申上げます

昭和十一・三・三〇

眞珠灣の九勇士を
讀ふ

明治・四三 理
角田 貞子

あなかしこ瓦となりて全きより眞珠となりて碎けしつはもの帝國の社頭に咲くや若櫻潔よき自爆の文字や春寒し

大東亞海
つぎに日の御旗立つひむがしの亞細亞の海の輝しさよ
つはものが命を捨て、かちえたる亞細亞の海は廣らに大らに

西脇りか氏の榮轉

山崎 みつ

私は自分の用事で去る三月の末に又大阪に参りましたが、會員の一人におあひした折に「この度西脇先生が大阪學院商科女學校の校長におなりなさいましたよといふいニユースを承つたのでした。それは何と適材適所でしょう」と答えました。其後西脇先生から御書あり、「私大阪學院商科女學校の校長として商都大阪の女性を大阪の女性らしく育てんと理想を抱いて立ちました」と力強い抱負が書いてありました。本當にうれしく思ひました。會員の先輩がかうした新しい方面に活動なさる様になつたことを會員のよろこびとして皆様に御報告申上ますと同時に西脇先生の益御發展なさる様祈念する次第です。

新刊書紹

佐川貞子著
最新裁縫全書(和洋)
有川 久恵

大東亞戦争の意義深き新春に大正十年度家事科卒業の佐川貞子様は日支事變の聖戦が開始されてより、出征將士を驛頭に見送る度毎、胸に迫る感激に、皇國のため自分に出来るものは何か、子女の教育、家事の務め、それだけではすまされないと、ふ氣持に驅られ、隣組の雜務、家庭の仕事の暇々をもつて、當裁縫書の編纂にかゝられたのであります。

舉國奮闘の中にも、若き女性の裁縫に關する修業は寸暇を惜んで修練されなければなりません。それには本書の如き獨習書が最も良き指導の役に立ちませう。記述に就ては教授法に最善を盡し、圖解に依つて説明を明確にしたもの。尙裁縫ひ以外の衣料に關する諸種の事柄をも織込んであります。(東京市麹町區飯田町愛之事業 三圓)

訂 正 (櫻蔭會報第二百四十五號附録)
櫻蔭女子高等工學校設立寄附者芳名中

最新裁縫全書

東京女子高等師範學校教授

中村ヨシ先生序文

東京女子高等師範學校卒業

佐川貞子著

A 5判・七〇二頁
紅羽二重製・函入

定價 三圓

(送料二十二錢)

和裁洋裁完璧 の新指導書

衣服類も愈々切符制になつて國民衣服に對する女性の任務も一層重大になつて参りました。本書は著者が女高師卒業後十數年に亙る高等女學校教授の豊富な知識を基礎にし、之に著者の苦心になる創意を加へて、早く、容易く、正確に、而も出来栄えのよきを主眼として編纂したものであります。内容は和裁洋裁の全般に亙り、何れの部分にも圖解を豊富に挿入して理解を容易ならしめ、説明は明確にして記述は教授法に最善を盡して居ります。教職にある方々には行届いた助手として、又、初習の方々には親切な指導書として御使用をお勧め致します。

發行所

東京市麹町區飯田町二ノ七
振替東京六七二〇四番

愛之事業社

活版 石版 オフセツト

廣業館印刷所

東京市神田區旅籠町二ノ二
電話下谷 (83) 五五七 四四八二番
振替口座東京 一九四四二番

昭和十七年四月二十五日印刷

(毎月一回)

貯存振

東京

六五八九番

(櫻蔭會)

理學博士 竹内時男先生訂校・堀口君子先生・中井壽惠先生共著

最新物理學精義

【第六版】

全一冊・菊判

定價參圓八拾錢

送料 貳拾貳錢

本書は精到な學理と實際教育の體験とを基礎とし全く独自の體系に成り最近急速に進歩した電送寫眞・トーカー・テレウイジョン・宇宙線等まで中等程度で容易に理解できるやう詳述してある。〔内容見本贈呈〕

東京女子專門學校名譽教授 吉村千鶴先生著

【重版】

全一冊・菊判

定價壹圓五拾錢

送料 拾四錢

新裁縫科指導法

本書は將來の裁縫科教授を如何に指導すべきかについて著者多年の實際教授の經驗に基づき法令及び教授要目を掲げ教授案の例を示し教材の取扱特にその指導法を獨特の觀察により懇切に説述した力作。

文學博士 箕作元八先生著 東北帝國大學 教授文學博士 大類 伸先生補訂

西洋史講話

史學の權威故實博士の西洋史基準書で三十年來推讃を博し尙大類博士により西紀一九一〇年以降が増補されて聲價愈々高くて世界情勢の由來を知ると共に喫緊なる現下の時局に處する國民必讀の書。

日本中等教育數學會編

【重版】

全一冊・菊判

定價貳圓五拾錢

送料 拾四錢

數學教育講演集

本書は日本中等教育數學會の創立二十周年記念出版書として前後二十箇年に亙る同會總會に於て述べられた數學諸權威の講演二十七を収録したもので是に我國數學教育の一大鳥瞰圖であり又變遷史である。

發行所

東京市小石川區小日向水道町
振替貯金口座東京五參貳貳番

東京開成館

販賣所 東京市日本橋區吳服橋 林平書店・大阪市東區北久寶寺町 大阪開成館

東京市小石川區大塚町三五
東京女子高等師範學校構内

東京市小石川區大塚町東京女子高等師範學校構内
編輯兼發行所 向 笠 慎 三 郎
東京市神田區旅籠町二丁目二番地